

地域資源の発掘とその情報発信に関する研究：近現代の雲南地域を中心に

農林生産学科 教授

伊藤 康宏

研究成果の概要

- ・研究課題：今年度は地域資源（むらの歴史文化）を再発見し、地域の宝物として学び、継承し、地域の内外に情報発信していくことを課題とした。
- ・研究方法：農村経済学教育コース専攻科目・農村調査分析論（2年生向けの通年必修科目）をCOC事業と位置づけ、地域課題解決型の調査実習の実践指導と並行して本課題に関する調査研究を行った。
- ・研究成果：2013年度開講当初から雲南市吉田町民谷をフィールドに地域のイベント・食文化・情報化・農村ツーリズムの4班に分かれ、地域課題解決型の調査実習に取り組み、毎年、1月末に現地成果報告会の実施と2月中に『農村調査分析論報告書』のとりまとめを実習生が行い、成果報告書を関係先へ発送している。その中で主に指導した地域情報化班は、2013年度「地域資源活用と情報発信：地区内外の情報発信に向けて」、2014年度「ITを使った情報発信に向けて：ホームページの立ち上げ」、2015年度「ホームページを活用した情報発信：地域と学生の協同運営をめざして」の各テーマで取り組んだ。それと並行して地域資源（むらの歴史文化）の調査を独自に行い、地域資源リストを作成し、その一部を「夢民谷の楽校」ホームページに掲載し、情報発信した。



- ・主な地域資源（むらの歴史文化）リスト：調査研究報告資料；小瀧遥編『島根県飯石郡 吉田村誌資料 第1輯』（愛郷会、1934年3月）、『同 第2輯』（1936年12月）、高橋幸八郎著『島根縣における株小作制度と田部家（鉄師）の構成並びに農地改革の影響』（農政調査会、1952年3月）、農村問題調査会編『林業実態調査報告書：木炭の生産構造 島根県飯石郡吉田村』（林野庁、1953年6月）、御園喜博「旧株小作地帯における製炭：島根県飯石郡吉田村」『木炭の生産と流通』（全国販売農業協同組合連合会、1958年3月）、相良英輔編著『松江藩鉄師頭取 田部家の研究』（島根大学特定研究部門プロジェクト、2009年3月）、現代地域史資料；吉田村教育委員会編『鉄の歴史村ふるさと資料集』（吉田村教育委員会、2004年3月）、吉田村閉村記念誌編集委員会編『歴史に刻む 吉田村閉村記念誌』（吉田村、2004年10月）、藤井幾朗編著『民谷の歴史を尋ねて』（郷土文化研究会、1989年7月）、民谷分校閉校記念実行事業委員会編『雲南市立吉田小学校民谷分校閉校記念誌 かぶと山の記憶』（民谷分校閉校記念実行事業委員会、2012年4月）、季刊「広報かぶと山」（民谷地区振興協議会）、「道の駅掛合の里発 散策マップ其の八 民谷」（2004年6月）他

社会への貢献・その他

2015年12月5日にくにびきメッセで開催された公開シンポジウム「汽水域の環境管理と地域活性化に向けて」（学部ミッション農山村の生活・環境部門合同、参加者総数36名）にてポスター発表（展示）を行い、さらに2016年1月31日に民谷交流センターにて学生による現地報告会（学生・教員19名、地域住民10名参加）と伊藤の補足コメントを行い、地域との関わり方等について意見交換を行った。両成果発表を通してこのような地域課題解決型の教育研究と成果発表の継続が不可欠であると考えます。また地域資源（むらの歴史文化）のリスト化はその発掘・保存と情報発信に寄与しうると考える。